



「阿仁川には魚がたくさんいるよー」と子どもたち

秋田での体験は忘れない
まとびの里子ども自然村

「まとびの里子ども自然村」が1期・7月27日～8月1日、2期・8月2日～8日の日程で行われました。

まとびの里子ども自然村は、文部科学省の自立支援事業の一環で行なわれているもので、遠くは静岡、大阪などから、期間中64人の子どもたちが参加しました。子どもたちは北秋田市三木田の市学童研修センターで宿泊し、秋田スギでの自分の箸作りや阿仁川での川遊び、農家宿泊体験、牛の乳しぼり、いも掘り、キャンプなどを体験しました。

最終日には、まとびの里で仲良くなつた友だちと住所・名前を書いたハガキを交換し、文通を約束し合っていました。

阿仁打当中村、戸鳥内地区の若者で組織する「マタギスタッフ」が8月7日、自治会の協力を得て、内陸線の車窓からの景観を損なわないようとに沿線の草刈を行いました。これは、秋田内陸縦貫鉄道株を側面からでもサポートできることはないかと「内陸線美化協力運動作業」として実施したもので、今年で3回目となります。



満100歳おめでとうございます

市長が「何に気をつけると、長生きできますか」と尋ねると、ミエさんは「何もないですか」と答え、家族が「もともと丈夫な人です。納豆やサケの皮を好んで食べます。働くのが好きで山菜採りも好きでした」と代わってミエさんの長寿の秘訣を披露してくれました。

ミエさんは旧森吉町の出身で、24歳のときに源治郎さん（20年前に他界）に嫁ぎ、2男5女をもうけ、孫17人、ひ孫20人、玄孫1人に恵まれました。現在は、長女と孫夫婦の4人家族です。

ミエさんは「何に気をつけると、長生きできますか」と尋ねると、ミエさんは「何もないですか」と答え、家族が「もともと丈夫な人です。納豆やサケの皮を好んで食べます。働くのが好きで山菜採りも好きでした」と代わってミエさんの長寿の秘訣を披露してくれました。

北秋田市誕生後初の百歳到達

畠山ミエさん（鷹巣地区三ノ渡）

北秋田市初の百歳を迎えた畠山ミエさん（明治38年8月15日生）を祝おうと8月16日、岸部市長と木村県地域振興局長が自宅を訪れ、記念品などを贈り長寿を祝福しました。

ミエさんは旧森吉町の出身で、24歳のときに源治郎さん（20年前に他界）に嫁ぎ、2男5女をもうけ、孫17人、ひ孫20人、玄孫1人に恵まれました。現在は、長女と孫夫婦の4人家族です。



今年は草刈区間を延長して実施しました

内陸線沿線の草刈で景観アップ

マタギスタッフボランティア



幻想的な光景を一層引き立てる「車まと火」

行く夏の夜を楽しむ 合川まつり

第33回合川まつり、第25回合川ふるさとまつりが8月14日、合川公民館付近を会場に開催され、行く夏の夜を楽しみました。

午後5時30分、合川太鼓保存会による呼太鼓でオープニング。続いて「福田獅子舞」「合川太鼓」と続き、メインとなる「通り踊り」は婦人会・中学生の息もピッタリ合い、盛んな拍手を浴びていました。

一方「合川まつり」は火文字などを浮かび上がらせ、2kmにわたって阿仁川の川面を赤く照らし出し、祖先を供養するとともに幻想的な光景をつくり出しました。

阿仁打当中村、戸鳥内地区の若者で組織する「マタギスタッフ」が8月7日、自治会の協力を得て、内陸線の車窓からの景観を損なわないようとに沿線の草刈を行いました。これは、秋田内陸縦貫鉄道株を側面からでもサポートできることはないかと「内陸線美化協力運動作業」として実施したもので、今年で3回目となります。

この日は強い日差しでしたが、約50人の参加ボランティアは、十二段トンネルから長畑地内までの約5kmの区間を背丈ほどに伸びた雑草を刈り取り、汗だくになりながらも手際よく作業を行いました。



森吉山の稜線をイメージした火文字と打ち上げ花火

炎と音の競演で幻想に酔う
森吉山麓たなばた火まつり

第19回森吉山麓たなばた火まつりが8月7日、阿仁前田河川公園を会場に開かれました。この祭典は、森吉山麓村おこし会（池田文明会長）が主催し、地域の絶大な協力により、行われている手作りのイベントです。

第一部では地域の踊りや太鼓が披露され、詰めかけた観客から大きな拍手を集めました。このあと、前田地区的集落から集まつた絵灯籠の大行列が練り歩き、8時からは火まつりの開演。火文字とともに夜空に打ち上げ花火が彩り、迫力ある太鼓の音が鳴り響きます。圧巻は川幅に広がる大ナイアガラの滝で、まつりは最高潮に達し、夏の夜のファンタジーに酔いしました。



異人館での阿仁中学校プラスバンド演奏

阿仁の川原「夏の陣」

花火大会と灯籠流し・異人館フェス

夏の清流に火花散る阿仁の川原「夏の陣」と銘打つ第43回花火大会と灯籠流し「異人館フェスティバル」が8月16日、異人館、伝承館敷地内を主会場に開催されました。

青空の下での異人館フェスティバルでは、明治時代の鉱山が華やかしころを彷彿させるムードとともに地ビールでのどを潤し、郷土芸能など盛り沢山のイベントで賑わいました。

「花火大会と灯籠流し」では、夕暮れとともに読経が流れる中、先祖供養の灯籠流しが行われ、幻想的な灯籠の光と夜空に描く色とりどりの花火と山峡にこだまする音とが一体化し、観衆を魅了しました。